



女性医師の窓

写真に魅せられて

佐原 まゆみ

能登に来てから11年。実家は東京、大学は群馬、卒業後は北陸内を転々とし、現在能登で開業医生活をしています。実家の母親によると、暗い寒いイメージの能登半島に一人娘を嫁にやるなんて全くの想定外だったとのことでした。しかし、能天気な私はそんなことはこれっぽっちも気にせず、能登の田舎生活を満喫している毎日です。楽しいことはいくつかありますが、今回は写真についてお話しさせていただきます。

能登は自然に溢れていて、ほんの少し車を走らせただけで美しい風景や野鳥たちに出会うことができます。特に日の出の時間帯はマジックアワーです。空の色は、紫からピンク色、そして橙色へと変わり、それに伴って海や田んぼ、木々や野鳥たちが刻々と違った表情へと変化していきます。それも季節ごとに微妙に異なった色に染まり、一日として同じ風景はありません。特にお気に入り撮影スポットの一つは能登島大橋が一望できる場所で、秋には蛸釣りのおじさんたちと顔なじみになることができます。野生のコブハクチョウが暮らしている赤浦潟や石崎港もお気に入りです、すぐ目の前で撮影するのが魅力的です。また、冬にはちょっと足を延ばして邑知潟のコハクチョウたちにも会いに出かけます。遠路はるばる4000km離れたシベリアからやってきたコハクチョウたちの力強さ、美しさ、仲間同志の絆には感動します。こうして撮った写真のうち気に入ったものは診察室の画像用モニターにスライドショーで映しています。うれしい感想をいただいたり、よい撮影スポットを教えていただけたりと、患者様との会話も弾んで良いコミュニケーションがとれるようになりました。

日の出の時間帯以外では、院内、関連施設のイベントや訪問診療の時にもカメラを持っていきます。ある日、訪問診療に伺っているご夫婦を撮影しようとしたところ、介護者である旦那様が突然奥の部屋に行き、ワイシャツに着替え、髪を整えて見違える姿で戻って来て思わず笑ってしまったことがありました。別のお宅では、いつもベッドに寝たきりで不機嫌だった旦那様が奥様と頬寄せ合ったポーズをとった際、照れるような笑顔を浮かべて下さったこともありました。また、高次脳機能障害が残存した女性が当院を退院される日に、石崎奉燈祭りへ見学に出かけたときの写真をご家族にお渡ししたところ、「こんなに楽しそうな表情ができるなんて思っていなかった。」と涙を浮かべて喜んでいただきました。

写真を撮り始めてから約1年、さりげない場面がかけがえのない瞬間であると気づくようになりました。すっかり写真のとりこになってしまった私ですが、これからも出会った瞬間の感動を残していけるよう精進していきたいと思います。

